

## 中村敏昭教授の退任にあたって

経済学会会長 小 淵 洋 一

中村敏昭教授は、2001年3月末に定年で退職されました。先生は、1969年に本学専任講師になられて以来、32年もの長い間経済学部の発展のために尽力されてきました。それに対して、ここに深く感謝申し上げます。

顧みれば、この32年間は、城西大学の発展、経済学部の発展の時期でもありました。その時期に、先生は経済学科主任、経済学部長をはじめ、就職部長、教務部長、学生副部長、図書館副館長など多くの役職を歴任し、本学の発展のために活躍されました。とりわけ、平成に入ってから以降、経済学部長として通算4期8年にわたって経済学部の発展のために、激務に対処されてきました。また、その間城西大学経済学会の会長として、学会の発展に尽力されてきました。定年間近いこの3月も、最後の最後まで学部長の仕事に専念されているお姿には深く感銘しました。

先生は、教育に対して強い情熱と厳しさを持っていたと思います。「鬼」の中村といわれるほど、先生の授業は厳しいということを知ったことがあります。その厳しさは、学生諸君を少しでも勉強させ、成長させようとする先生の教育に対する熱い情熱であったのだと思います。学生の教育の問題に関しては、私たちにも厳しいものがありました。それも、学部のことや学生のことを心配してのことだったと思います。

学生の間では、人気教授として有名で、女子学生がたくさん先生のゼミナールに集中しました。教育に対する厳しさ、包容力のある優しさ、素敵なおプロポーション、魅力いっぱいの先生ですから、学生が集中するのも仕方のないことだったのかもしれない。

今でも忘れることができないのが、先生が経済学会会長のとき情報科学研究センターにパソコンを100台寄付して頂いたこと、センター講座の開設に際してご理解とご協力を頂いたことです。情報科学研究センターの情報教育をスタートさせることができたのも、先生のご理解、ご協力によるものと深く感謝しております。また、個人的には、全学就職委員、入試の出題委員のときに多々ご教授頂き、本当に有り難うございました。

最後になりましたが、これからも健康に十分留意されて、研究活動に力を注いで頂きたいと願っております。